

1. 地域コミュニティの実態に関する調査研究

本稿では、「地域コミュニティの実態に関する調査研究」の研究活動について報告する。

(1) 地域生活とコミュニティに関する調査

①「調査研究報告書」の発行

令和3年7月に実施した「地域生活とコミュニティに関する調査」について、単純集計および詳細分析、令和4年度に実施した「区民公開セミナー」の様子などをまとめた「調査研究報告書」を令和6年3月に発行した。発行にあたっては、令和5年度の研究会において、当該年度に新たに行う分析や調査について、メンバーでディスカッションを行いながら内容の検討を行った。

②インタビュー調査の実施

地域の活動がコロナ禍にどのような影響を与えたかについて、インタビュー調査を実施した（報告内容は「調査研究報告書」へ掲載）。

③庁内職員とのディスカッション

「地域生活とコミュニティに関する調査」の単純集計データを再分析し、その結果について研究所職員と庁内職員とでディスカッションを行い、内容を「調査研究報告書」へ掲載した。

実施日時：令和5年11月8日（水）

概要：新型コロナウイルス感染症拡大が家事負担にどのような影響を与えたかについて、再分析データを区における男女共同参画推進施策の担当所管課と共有し、施策のアイデアや今後の調査に対する課題などについての意見交換を行った。

担当所管課：生活文化政策部人権・男女共同参画課

(2) 「小さなまちの拠点」に関する調査研究

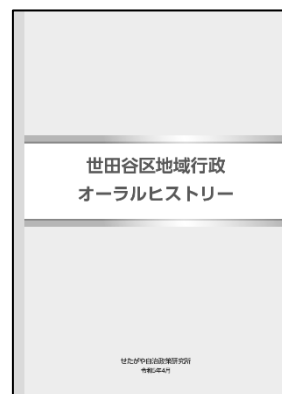
①データベースの更新

令和3年度に作成した「小さなまちの拠点」データベースについて、ホームページやハンドブック、関係所管課からの情報収集により、データの追加・更新作業を行った。

2. 世田谷区地域行政オーラルヒストリーの発行（令和 5 年 4 月）

研究所では、地域行政推進条例の検討にあわせ、令和元年度から地域行政に関する調査を行っている。その一環として、今後の区の地域行政推進・事業実施の一助となることを目的に、これまでの区の地域行政の歴史を振り返り、昭和 50 年以降に地域行政の準備・草創期・運用の開始・運用後の調整に携わった方々のインタビュー記録を冊子に取りまとめた。

当時の担当者として感じた問題意識や地域行政とのかかわり、政策決定の過程、制度化にあたっての苦労話等を掲載している。



①インタビュー対象者（実施順）

霜村 亮 氏、板谷 雅光 氏、卯月 盛夫 氏、馬場 秀行 氏、永山 和夫 氏、
秋山 光男 氏、西澤 和夫 氏、金澤 弘道 氏

②インタビュー期間

令和 3 年 5 月～令和 4 年 1 0 月

③インタビュー方法

世田谷区の地域行政等への関わりを聞き、質疑をおこなう形式で進行

3. 特別区長会調査研究機構の研究

特別区長会調査研究機構は、平成 30 年 6 月、特別区長会が、特別区及び地方行政に関わる課題について大学その他の研究機関、国及び地方自治体と連携して調査研究を行うことにより、特別区長会における諸課題の検討に資するとともに、特別区の発信力を高めることを目的として設置された。平成 31 年 4 月から、広く特別区の行政運営に資する課題等について調査研究を行っており、せたがや自治政策研究所では、基礎研究の一環として、令和 5 年度は「特別区における女性を取り巻く状況と自治体支援の方策」にメンバーとして参加し研究を行った。

【令和 5 年度調査研究テーマ】

「特別区における女性を取り巻く状況と自治体支援の方策」（世田谷区提案による研究テーマ）

【研究の概要】

『令和 5 年度「特別区における女性を取り巻く状況と自治体支援の方策」に関する調査研究報告書』令和 6 年 3 月 31 日 参照

【研究会実施日時及び内容】

日 時	主な内容
令和 5 (2023) 年 4 月 25 日 (火)	第 1 回研究会 ・オリエンテーション ・女性を取り巻く環境の動向変化の整理と先行事例の共有 ・アンケート (LINE、23 区) 項目案の検討
5 月 24 日 (水)	第 2 回研究会 ・LINE アンケートの集計結果の共有と本調査に向けた検討 ・23 区アンケート項目案の検討 ・民間支援団体アンケート項目案の検討
6 月 21 日 (水)	第 3 回研究会 ・23 区アンケート結果速報 ・民間支援団体アンケート項目案の検討 ・本調査アンケート項目案の検討
7 月 25 日 (火)	第 4 回研究会 ・23 区アンケートの中間とりまとめ ・民間支援団体アンケート経過報告 ・本調査のアンケート項目案の検討
8 月 29 日 (火)	第 5 回研究会 ・民間支援団体アンケート結果 ・民間支援団体ヒアリング検討 ・本調査のアンケート結果 (速報版) ・女性インタビューの検討
9 月 27 日 (水)	第 6 回研究会 ・民間支援団体ヒアリングの実施に向けて ・本調査アンケートの結果報告 ・女性インタビューの実施設計に向けて ・報告書骨子案の検討
11 月 1 日 (水)	第 7 回研究会 ・本調査アンケートの追加分析 ・女性インタビューの結果報告 ・民間支援団ヒアリングの結果報告 ・報告書骨子案の検討
11 月 20 日 (月)	第 8 回研究会

	・調査結果の追加分析 ・調査結果から見えた女性の実態と課題 ・自治体施策の方向性の検討
12月11日（月）	第9回研究会 ・自治体施策の方向性の検討

4. せたがや自治政策研究所有識者懇談会

せたがや自治政策研究所では、専門家の立場から調査研究に対して様々な知見やご助言をいただくため、定期的に有識者との懇談の場を設けている。令和5年度は、3回の有識者懇談会を実施した。

有識者（五十音順）

駒澤大学法学部政治学科教授 内海 麻利 氏

東京大学大学院人文社会系研究科准教授 祐成 保志 氏

東京都立大学都市環境学部都市政策科学科教授 松井 望 氏

第1回有識者懇談会

日時：令和5年4月28日（金） 10時～12時

場所：教育総合センターRoom1 および Zoom によるハイブリッド開催

概要：本年度事業計画および各プロジェクトについての説明、意見交換

第2回有識者懇談会

日時：令和5年9月25日（月） 13時～15時

場所：教育総合センター研修室「つき」

概要：各プロジェクトの進捗報告、意見交換

第3回有識者懇談会

日時：令和6年1月24日（水） 14時20分～17時

場所：教育総合センター研修室「たいよう」

概要：研究活動の報告、研究発表、意見交換

（研究活動報告会を兼ねての実施）

5. データの整備と活用

開設当初より研究所の役割となっている「データの整備」を進めるため、基本計画の改定の機会に合わせる形で、全庁に EBPM マインドを醸成し、データ利活用を推進することを目的とした取組み「データの整備と活用」プロジェクトを令和 3 年度より実施している。理論的なアプローチをもとに、さまざまな取組みを試行する C-1「政策形成能力の向上とデータ活用の推進」、EBPM マインドを持った職員の育成を実践する C-2「せたがや版データアカデミーの開催」、次期基本計画に向けた基礎資料とするための C-3「将来人口推計」の 3 つを軸に、各担当が協力してプロジェクトを進めた。

(1) 政策形成能力の向上とデータ活用の推進

全庁でのデータ活用を進め EBPM を推進するために、定点観測データの見える化の検討をした。詳細は 4 ページのとおり。

(2) セタがや版データアカデミーの開催

独自のカリキュラムによる政策形成演習として「EBPM の考え方」の普及・定着のために対象を変えて 2 回「せたがや版データアカデミー」を実施した。実施にあたっては(1)の見える化したデータも活用した。詳細は 16 ページのとおり。

(3) 将来人口推計

「基本計画（令和 6 年度～令和 13 年度）」の策定に向けて区独自の将来人口推計である「令和 5 年度世田谷区将来人口推計」を実施し、基本計画の基礎資料とした。実施に先立ち人口動向を分析して推計に役立てるとともに、(1)、(2)の調査研究にも活用した。

(4) データの整備と活用に関する研究会の開催

上記(1)から(3)を円滑に進めるため、国勢調査や土地利用等の公的統計データや各種意識調査等のデータを特別区・地域・地区等の空間情報と結び付けて可視化し、整備していくにあたり、研究所次長、政策研究員 1 名、主任研究員 2 名、特別研究員 2 名、研究員 2 名で構成したプロジェクトメンバーで研究会を実施した(表 1)。

なお、政策研究員は、浅川達人氏（早稲田大学人間科学学術院教授）に委嘱した。

表 1 研究会の開催日と内容

日時	内容
【第 1 回】 令和 5 年 4 月 11 日	データの整備と活用について ・ 令和 5 年度調査研究の今後の進め方について ・ 国勢調査データの地図による可視化について
【第 2 回】 令和 5 年 5 月 16 日	各報告 ・ 国勢調査データと施設の定員充足状況やクラスター分析について ・ 新しいエビデンスとしての人流データについて

【第3回】 令和5年7月11日	各報告 ・社会地図を使った分析結果の報告 ・コミュニティ政策学会発表の報告
【第4回】 令和5年8月8日	報告 ・令和5年度「データ整備と活用」調査研究について ・ダッシュボード試作品について
【第5回】 令和5年10月24日	中間報告会の報告 「データ整備と活用」について ・令和5年度「データ整備と活用」調査研究について ・せたがや版データアカデミーCase Review Forum について ・今後の進め方について
【第6回】 令和5年11月29日	「データ整備と活用」について ・令和5年度「データ整備と活用」調査研究について ・ダッシュボードについて ・報告書について せたがや版データアカデミーCase Review Forum について 研究報告会について
【第7回】 令和6年1月9日	「データ整備と活用」について ・令和5年度「データ整備と活用」調査研究について せたがや版データアカデミーCase Review Forum について 研究報告会発表資料について
【第8回】 令和6年2月28日	「データ整備と活用」について ・令和5年度「データ整備と活用」調査研究について ・報告書について せたがや版データアカデミーCase Review Forum 振り返り
【第9回】 令和6年3月11日	「データ整備と活用」について ・令和5年度「データ整備と活用」調査研究について ・報告書について 令和6年度調査研究についての意見交換

6. セタ研ゼミ

せたがや自治政策研究所では、令和 2 年度より職員の政策形成能力の向上を目的に、研究所の研究成果や研究のプロセスで得られた知見を庁内職員と共有し、職員同士で考え、議論できるオープンな場としてセタ研ゼミ（旧庁内オープンゼミ）を実施している。

令和 5 年度は全 3 回実施し、参加できない職員向けには映像データを庁内公開サイトに掲載し、後日視聴できるようにした。参加者には事前に質問事項を書面で募集、内容に反映し、ディスカッションのテーマに取り上げた。実施後のアンケート調査も行い、Newsletter に掲載し概要とともに庁内周知を行った。

（1）本年度開催概要

【第 1 回】

テ ー マ	「自分の仕事を深く考えてみよう！文章で伝えてみよう！」
講 師	男鹿 芳則氏（前世田谷トラストまちづくり理事長） 鈴木 景子氏（一般社団法人イヴの木代表理事）
日 時	令和 5 年 5 月 23 日（火）
内 容	・講演 1：自分の仕事を深く考えてみよう！文章で伝えてみよう！（男鹿氏） ・講演 2：職員と団体運営 2 つの立場がもたらすもの（鈴木氏） ・男鹿氏、鈴木氏、大杉所長による座談会
参加人数	14 人



▲講師の男鹿氏



▲講師の鈴木氏

【第 2 回】

テ ー マ	自治権拡充に向けた特別区の在り方とは？
講 師	志賀 徳壽氏（特別区長会事務局参与）
日 時	令和 5 年 5 月 31 日（水）
内 容	・講演「特別区制度改革の歩みとこれから」 ・ディスカッション パネリスト：志賀氏、大杉所長 聞き手：奥村主任研究員
参加人数	9 人



▲講師の志賀氏

【第3回】

テ ー マ	地域の現状把握と情報共有から始まる連携と対話
講 師	大杉 覚（東京都立大学法学部教授、せたがや自治政策研究所所長）
日 時	令和5年10月13日（金）
内 容	・講演：データを通して地区・地域を見ることがなぜ求められるのか？ ・ミニワークショップ
参加人数	23人



▲ ミニワークショップの様子

※せたがや版データアカデミー（Case Review Forum 令和5年度第2シーズン第1回）との合同開催

【所内ゼミ】

テ ー マ	地域コミュニティについてーまちの拠点をどうとらえるべきか
講 師	大杉 覚（東京都立大学法学部教授、せたがや自治政策研究所所長） 金 今善（國學院大學観光まちづくり学部地域マネジメント研究センター准教授）
日 時	令和5年5月11日（木）
内 容	・多摩市松が谷商店街のコミュニティスペースまつまるの活動について ・韓国ソウル市のマウルにおける活動団体や人のつながりに関する調査について
参加人数	7人

7. 情報収集・発信

(1) 学会等派遣

調査研究や将来的に政策立案に役立つ情報を収集するため、各分野の学会等へ研究員を派遣している。

学会	テーマ
日本行政学会	○2023 年度 日本行政学会研究会 (2023 年 5 月 13～14 日開催) ・ 共通論題 (参加) - I 「地方分権改革を再考する一分権決議 30 年」 ・ 分科会 (参加) - A 1 「中央と地方の相剋」 - A 2 「規制改革と地方自治体」 - B 1 「地方行政の制度発展」「地方行政の制度発展」 - B 2 「PSM 研究の最前線」
コミュニティ 政策学会	○第 22 回学会大会 (2023 年 7 月 2 日開催) ・ 分科会 (発表) 2-3 「データで読み解く世田谷区の地域特性と地域コミュニティ」
自治体学会	○第 37 回自治体学会 川崎大会 (2023 年 8 月 25～26 日開催) ・ ポスターセッション (発表) 「データの整備と活用プロジェクトの活動報告」発表 ・ 研究発表セッション (参加) - セッション C : 地域活性化 - セッション G : 参加・協働 ・ 分科会 (参加) 2 コミュニティのありたい姿と支える自治体政策 ～持続可能な地域社会づくりに向けて～ 4 社会的価値を反映させた公共調達の可能性 ～人権尊重の対応を契機として～ 7 少子高齢化・人口減少時代の「創造都市・創造農村」 9 議会からの政策立案をすすめるには ～執行部と議会はどう協働するか～

(2) 学術機関誌「都市社会研究」の発行

自治・協働のさらなる発展を目指すとともに、区民の主体的な地域活動を全国に発信し、加えて幅広い分野の研究者や地域活動に取り組む住民との研究交流を通じて、区の政策形成の基盤づくりを図ることを目的に学術機関誌「都市社会研究」を平成 20 年度より発行している。

第 16 号の特集テーマは「現代都市における孤独・孤立と居場所・つながり」として、テーマに造詣が深い有識者の論文 7 本を掲載した。また、公募の研究ノート 2 本を査読の結果掲載するとともに、活動報告 1 本を掲載した。

掲載論文等に関しては、世田谷区ホームページで公開している。



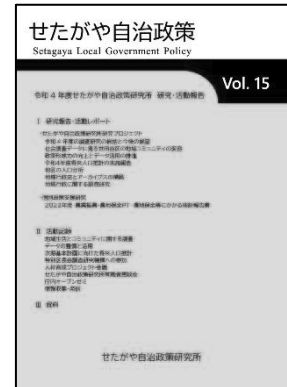
都市社会研究 2024（第 16 号） 掲載論文等一覧

執筆者	論文タイトル
特集論文「現代都市における孤独・孤立と居場所・つながり」	
石田 光規	場の喪失と場の再生：都市における孤立現象への対応
澁谷 智子	ヤングケアラーの孤独・孤立——アクセスしやすいサポートをいかに作るか
荒見 玲子	包摂型社会政策において「制度の狭間」を乗り越える条件 世田谷区の取り組みから
田中 康裕	施設の外側にある場所 岩手県大船渡市「居場所ハウス」からの考察
後藤 智香子	「地域共生のいえ」が生み出すつながり —「岡さんのいえ TOMO」を中心に—
萩原 建次郎	都市における子ども・若者の社会的孤立と居場所・つながりへの支援 —世田谷区立児童館・青少年交流センター職員への記述式アンケート を手がかりに—
金澤 良太 小山 弘美	世田谷区の地域コミュニティと人びとのつながり ——地域参加と孤立の視点から——
研究ノート	
八木 寛之	商店街組織による集団求人に関する研究 「商店街の近代化」議論をとおして
衣川 智久	東京都 23 区における緑化政策の実態と評価に関する考察 —市民協働の観点から—
活動報告	
鬼塚 正徳	市民活動の福祉輸送で共生社会を目指す

(3) 庁内外への研究成果発信

① セタがや自治政策

平成 20 年度より前年度の調査研究・活動報告書を毎年発行している。令和 5 年度は令和 4 年度の研究成果・活動報告を取りまとめ、「せたがや自治政策 vol. 15」として 9 月に発行した。内容は区のホームページで公開しているほか、世田谷区立図書館、区政情報センターにも配架している。



② ホームページ

世田谷区のホームページで研究所の活動内容について紹介している。本年度は、庁外向けに調査・研究会等の報告を行った。

③ 庁内公開サイト

職員向けに研究所の発行物や研究成果、国勢調査データ等による社会地図、Newsletter を掲載している。昨年度に引き続き、当日参加できなかった職員にも時間を選ばず視聴ができるよう、実施した庁内オープンゼミの動画やスライドを掲載したほか、将来人口推計やダッシュボード試作品、庁外で実施されるセミナーや学会などの情報共有を行った。

せたがや自治政策研究所			
■ 新着情報 ○ 全庁へのお知らせ ● Newsletter4月号をアップしました。(2023/3/30) ● 『都市社会研究 2023 読後』をアップしました。(2023/3/30) ● 7月26日に開催した庁内オープンゼミの資料をアップしました。 ● 1.3 政策研究をアップしました。 ● 自治体経営のあり方研究会特別ゼミを実施しました。 ● 政策研究部へデータを活用した政策立案(基礎編)へを開催しました(平成30年8月) ● q 第1回(8月2日) 講義概要.docx ● 01 GISによる地理空間分析.pdf ● 02 自治体における統計データの活用用.pdf ● 03 事前質問への回答.pdf ● 『世田谷区データブック1ー世田谷の社会的特性(地域と人口)ー』(平成28年3月発行) ● 『世田谷まちづくり大学生プレゼン大会』(平成26年12月11日開催)、「記録集」(提案内容等)(平成27年2月発行)			
1 セタがや自治政策研究所について 1.1 運営方針 1.2 事業計画 1.3 政策研究	2 お知らせ 2.1 「都市社会研究」論文等募集(定期応募連絡) 2.2 Newsletter(最新版) NEW - 読者アンケート NEW - Newsletterのバックナンバー - 社会調査マ스터への道(総集編)	3 セタがや自治政策 3.1 セタがや自治政策とは 3.2 論文一覧はこちら 3.3 令和4年度研究・活動報告 NEW	4 都市社会研究 4.1 論文一覧はこちら! 4.2 『都市社会研究2023』 NEW

④ 研究活動報告会

研究成果の庁内周知を図るため、平成 30 年度より研究報告会を実施している。令和 5 年度は一般公開して実施し、来場者と研究員とが直接対話し、意見交換や議論を行った。

令和 5 年度テーマ「データで読み解くせたがや」

内容

I 特別講演

浅川 達人氏「社会空間分析でみる東京圏の中の世田谷区」

II せたがや自治政策研究所の研究発表

III 会場参加型ディスカッション

コメンテーター

伊藤 雅春 氏（明星大学建築学部教授/玉川まちづくりハウス）

祐成 保志 氏（東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

松井 望 氏（東京都立大学都市環境学部教授）

保坂 展人（世田谷区長）

コーディネーター

大杉 寛（せたがや自治政策研究所所長）

IV ポスターセッション

参加者と研究員との対話による意見交換

（４）Newsletter

令和元年度より庁内への情報発信をより強化するため、Newsletter の発行を再開し、全庁あてにメールで周知している。令和５年度は調査研究の紹介、データ活用や EBPM に関する連載など、庁内職員向けに情報発信を行うだけでなく、ホームページでも公開している。